

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームサンライト
(ユニット名)	たかちほ棟
所在地 (県・市町村名)	霧島市牧園町高千穂3617-640
記入者名 (管理者)	西田 房子
記入日	平成 20 年 7 月 1 日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設全体の理念と地域に密着したグループホーム独自の理念を職員で検討して取り組んでいる。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1日と15日の朝礼時は職員で唱和し自分達の理念を確認しケアに取り組んでいる。月2回のQC会議でも理念の実践ができてきているかの確認をしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	グループホーム便り、広報誌にホームの理念を記載して地域との交流の大切さを理解して貰えるように工夫している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム近隣の方と職員とが日常てきに声かけ畑で取れた野菜等頂いたりしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人全体での夏祭り、ふれあい文化祭等の行事に参加し地域の住民との交流に努めている。また地域の小学校の子ども達との交流で手作りカレンダーを貰い、グループホームから雑巾を贈り子ども達に使用してもらっている。霧島市の福祉祭り、始良伊佐地区認知症セミナー参加、舞台公演にも参加した。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	独居暮らしの方がたへの声掛けや、ホームへ足を運んでもらえる工夫を心がけている。ドリンクバーの日に招待したり、誕生会に招待したのしんでいただく。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員がこれまでのケアを振りかえる機会と考えており全員で自己評価を行いサービスの質の向上に努めている。外部評価の結果を職員会議、QC会議で改善にむけて話し合い検討している。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、市町村職員、包括支援センター、地域住民代表の出席があり行事報告や外部評価の説明、結果報告をおこなうと共に出席者より意見や要望をだしてもらいサービス質の向上に活かしている。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の窓口にホームのパンフレットを置くなどしてホームを理解してもらい、市町村担当者とサービス向上に向けていっしょに取り組んでいけるように努めている。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修時は職員が勤務内で順番に参加し職員会議で研修報告をおこなっている。学ぶ機会があれば積極的に参加するようにしている。	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修時は職員が勤務内で順番に参加し職員会議で研修報告をおこなっている。学ぶ機会があれば積極的に参加するようにしている。職員会議で常に職員で話し合い防止に努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、管理者、計画作成担当者により重要事項説明書でわかりやすく説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様のご家族面会時に気兼ねなく話しが出来る環境づくり、職員、管理者へ御意見、要望を伝える事が出来る機会をもつようにして、意見が運営に反映できるようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便り、お手紙で入居者様のご様子をお知らせしている。今月の担当者名を記載することで担当の職員がわかるようにしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時に気兼ねなく話しが出来る環境づくり、アンケート、毎月のお手紙にて御意見、要望を伺い運営に反映できるようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、QC会議にて話し合い会議録にて施設長への報告をしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員全員の協力を得て調整している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族様の伝えたい事をしっかり受け止め不安の無いように信頼関係に取り組んでいる。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談のあとご本人にもみていただき必要なサービスの提供をおこなう。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談のあとご本人、ご家族の要望をきき雰囲気馴染めるように工夫している。ご本人のライフスタイルを職員が把握し取り組んでいる。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の味見をしていただいたり、梅干し作り、らっきょう漬けなど得意なことを教えていただく場面を多くつくれるようにしている。うまく出来たときは入居者様、職員ともに喜んでいる。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の誕生日には、招待して一緒にお祝いをしていただくようにしている。当日手作りのケーキでお祝いしている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者様の誕生日には、招待して一緒にお祝いをしていただくようにしている。当日手作りのケーキでお祝いしている。また、外出や行事の際は、ご家族の協力をもらいながら本人と家族と一緒に過ごせる時間を多く持てるようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物支援や、ドライブなど、入居者様が過しておられた場所へ出かけて行くようにして馴染みの場所で過せるように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やリビングでの過ごし方、座る席の場所に配慮し孤立しがちな方に対して入居者様同士が支えあえるように職員が気配りをしながら支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院による退居後も入院先の病院に見舞いに行ったりしてご本人の不安が少しでも軽減するように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々により思いの違う事を職員が理解しており、家族への連絡希望などに対しても入居時ご家族に聞いておりその都度連絡したりしている。入居者様の希望困難な場合はご家族、職員とで話し合いながら検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時また入居後もご本人やご家族と話せる機会を作り一人一人の生活歴の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員一人一人の意見も考慮し、話し合いながら入居者様の能力状態の把握に努めている。毎朝の朝礼時の報告時意見を出しあっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員一人一人の意見も考慮し、話し合いながら入居者様の能力状態の把握に努めている。毎朝の朝礼時の報告時意見を出しあっている。また面会時ご家族様のいけんを聞いたり手紙で要望を貰ったりしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員一人一人の意見も考慮し、話し合いながら入居者様の能力状態の把握に努めている。毎朝の朝礼時の報告時意見を出しあっている。また面会時ご家族様のいけんを聞いたり手紙で要望を貰ったりしている。身体状態の変化時は主治医の意見も重要で相談している。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員一人一人の意見も考慮し、話し合いながら入居者様の能力状態の把握に努めている。毎朝の朝礼時の報告時意見を出しあっている。また面会時ご家族様のいけんを聞いたり手紙で要望を貰ったりしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同敷地内の病院や老人保健施設、特養と認知状態や身体介護の状況でその都度病院受診し、入居者様の状態にあった居場所をご家族とともに検討している。また、いろいろな法人の行事への参加することで事業所の多機能性を知っていただき支援していくようにしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域公民館内に図書館があり本を読まれるのが好きな方は外出を利用して借りに出かけたりしている。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同敷地内の病院や老人保健施設、特養と認知状態や身体介護の状況でその都度病院受診し、入居者様の状態にあった居場所をご家族とともに検討している。ケアマネジャー、相談員との話し合いも必要に応じて行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月ごとの運営推進会議に出席されたときに意見をもらったりと相談できる機会があるので、必要時は協同していけるようにしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同敷地内の桜ヶ丘病院を確保し、入居者、家族の希望どうり眼科、皮膚科、歯科等納得が得られるように支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	同敷地に病院があり、必要に応じて受診している。桜ヶ丘病院には、老年精神科があり認知症に対する診断や治療を受ける事ができる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり入居者の状態を把握している。また、同敷地内の老人保健施設の看護師、桜ヶ丘病院外来看護師と日常的に相談できる体制になっていて健康管理はできている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合には主治医に症状を伺いながら入居者が安心して過せるように情報の交換は行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合病院への入院、また、他の施設への紹介をする機会を持つ事の同意書ももらっている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居時に重度化した場合病院への入院、また、他の施設への紹介をする機会を持つ事の同意書ももらっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>情報提供書、サマリーにより情報の交換をしてい る。電話連絡にて情報を得るようにしている。</p>	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない</p>	<p>理念にそって一人一人を尊重したケアの提供が 出来るように努めている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけた り、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる</p>	<p>入居者の自己決定が出来るように職員ひとりひと りが支援するようこころがけている。その日の 日程などレクレーションへの参加など無理強いし ないように声がけし、参加していただいている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている</p>	<p>ホームでの生活の流れは入居者一人一人の希望に 添えるように確認、相談し入居者と決めるよう にしている。人体状況にも合わせながら一日過 している。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行 けるように努めている</p>	<p>ご本人行きつけの理容、美容院があり随時ご家 族、職員でつれていっている。服選びもご本人に 出来るだけ選んでもらうようにしている。</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者の嗜好に合わせた食事の提供にしている。 入居者の得意な味付けや季節の食材を取り入れ、 野菜切、準備、調理等行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の嗜好に合わせた食事の提供にしている。味付けや季節の食材を取り入れ、一緒に味わっている。ドリンクバーの日（毎月、5、15、25、）タバコも職員と一緒に食後に吸っていただいていた。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを把握している。プライドを傷つけないようにさりげなく声かけして誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜以外は毎日入浴できるようになっている。入居者の一日過ごす時間の中で、入浴していくようにしている。希望者は毎日入浴される方もいる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	不安など、不眠になる場合は話し相手になり安心して休めるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日のレク、作業、また、日ごとにいろいろなレクを計画して得意とすることが見出せるように注意している。食事づくりで自分の得意な場面を出せる入居者もいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者家族がほとんど管理している。お子使いはホームで預かっているため外出時は自分で支払えるように支援している。		


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調に合わせてホーム外へ出かける、ドライブ、踊り教室参加、全員が参加できるように支援している。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力で、地域ないのホテルへ食事に出かけた。地区のグループホーム主催のフォーラム参加等今後も協力を得ながら参加できるように支援していきたい。	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話の利用や敷地内のポストに手紙を出しにいかれたり希望があれば職員が手助けしながら家族への連絡をしている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	毎月のホーム便りで行事をお知らせしている。面会時はご自分の部屋で過せるように、お茶を用意してゆっくり話せるように支援している。	
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解できている。現在身体拘束はしていない。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	興奮があり危険がしょうじる以外玄関の鍵はかけていない。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら、いつでも見守る場所において職員は勤務ごとに役割分担をして入居者一人一人の所在、様子を把握している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	決められた保管場所があり、入居者に危険があるものは目の届きにくい場所に保管している。職一人一人が理解している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止委員会があり事故が起こるとその都度話し合い防止できるようにしている。	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急蘇生法の勉強会に職員全員参加しており、急変時の初期対応はできている、ホーム内で勉強会も行うようにしている。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署と連携で消防訓練を行ない避難方法も身につけている。また、非常連絡網、消防署への連絡方法も掲示し非常時の体制は、常に取れている。連絡方法も定期的に訓練を行っている。	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	下肢筋力の低下による転倒、嚥下困難による誤嚥一人一人の状態に合わせて説明するよにしている。防止策等職員と話し合いながらご家族にもわかりやすく説明している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日朝夕のバイタルチェックを行ない異変が見られる場合は主治医へ連絡、病院受診を行っている。受診後は他職員へも申し送りを必ず行ない見たらサインするようにしている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示どおり服薬できるように職員全員が把握、理解している。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘に対しては水分を多く取るように声かけしている。お茶や水以外のものでも水分が取れるように支援している。腹部のマッサージ、繊維の多い食物を食事に取り入れるように工夫している。運動も歩行訓練をかねて行うようにしている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア、拒否のある方には職員が一緒に歯磨きを行いながら誘導している。磨きやすい洗面所に歯ブラシセットを準備している。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士と連携をとりながら栄養摂取、水分確保を支援し記録にのこしている。一人一人の状態に合わせてキザミ食、ミキサー食等入居者の嚥下咀嚼に合わせて形態を工夫している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルにより職員全員が対応、実施している。玄関に手指消毒液を設置し外部からの感染予防を行っている。また、入居者一人一人手洗い、うがいの声かけ、誘導を行なっている。共有のタオルの使用廃止。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台 所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全 な食材の使用と管理に努めている	食器乾燥機を使用し常に食器、調理器具の衛生管 理に努めている。布巾、まな板は、常に消毒を行 い冷蔵庫も定期的に日にちを決め管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみや すく、安心して出入りができるように、玄関や 建物周囲の工夫をしている	一般家庭と同じ玄関作り、手作りの表札を作り、 玄関は季節の花を植え、家族や近隣の方々あ気 軽に出入りできるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食 堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快 な音や光がないように配慮し、生活感や季節感 を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫 をしている	落ち着いて暮らせるように日差しについては、ス クリーンを使用し音に関しては、職員同士の会 話、テレビの音に注意している。季節感に関し ては季節の花を飾るなど、工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の 合った利用者同士で思い思いに過ごせるよう な居場所の工夫をしている	リビングにはソファを配置又は、自分の好きな 椅子を使用し気のあった方同士で自由に過 ぎされている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と 相談しながら、使い慣れたものや好みのもの を活かして、本人が居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	入居者各自で使いなれたものを持ち込まれて おり居心地よく過ごされるように工夫をして いる。又家族にも入居時になじみの多いもの を持ち込んでくださるよう、お願いしてい る。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう 換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差 がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこ まめに行っている	天気の良い日は窓を開け、換気を行っている。 又居室には芳香剤を置いたり、好きな花を飾 ったりして、不快なおいがしないように配慮 している。温度調節は入居者の方々にお尋 ねしながら、職員にて対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	段差をなくし、手すりを設けて歩行がスムーズに 安全に出来るように配慮している。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	日常生活のなかで料理や洗濯物たたみをお願いし て手伝って貰っています。又職員は、失敗しても さりげなく始末して、本人のプライドを傷つけな いように注意してます。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	季節の花・野菜を植え手入れ、水撒き等されてい る。嫌い方もおられるため職員が手伝っている。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	② ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームサンライトは霧島の豊かな自然に囲まれ、季節の移り変わりを身近に感じられる環境の中に建てられた和風の平屋作りのグループホームです。同敷地内には母体となっている社会福祉法人の福祉施設や医療施設、介護施設があります。連携を密にとり、利用者の医療面や安全面の充実、職員間や地域の人達との交流ができるよう取り組んでいます。利用者一人ひとりの尊厳を大切に日々のケアを行ない、家庭的な雰囲気の中で利用者職員がお互いに支えあい明るくいきいきと過ごすことが出来るよう取り組んでいます。また、地域家族交流へも力を入れて取り組んでいきたいと思っています。